

古今和漢

本朝書信

万寶金書

一

上

目錄

名書自上古至隋宋代

二百三十八

卷一 紀事文





本朝書畫傳



合口類目書畫

本朝畫師傳目錄

- 一 聖德太子
- 二 弘法大師
- 三 菅原相
- 四 大愚居士
- 五 百瀨川成
- 六 紀金房
- 七 紀金持
- 八 巨勢金吾
- 九 小野篁
- 十 巨勢金吾
- 十一 文勢公忠
- 十二 文勢公忠
- 十三 文勢公忠
- 十四 文勢公忠
- 十五 文勢公忠
- 十六 文勢公忠
- 十七 文勢公忠
- 十八 文勢公忠
- 十九 文勢公忠
- 二十 文勢公忠
- 二十一 文勢公忠
- 二十二 文勢公忠
- 二十三 文勢公忠
- 二十四 文勢公忠
- 二十五 文勢公忠
- 二十六 文勢公忠
- 二十七 文勢公忠
- 二十八 文勢公忠
- 二十九 文勢公忠
- 三十 文勢公忠
- 三十一 文勢公忠
- 三十二 文勢公忠
- 三十三 文勢公忠
- 三十四 文勢公忠
- 三十五 文勢公忠
- 三十六 文勢公忠
- 三十七 文勢公忠
- 三十八 文勢公忠
- 三十九 文勢公忠
- 四十 文勢公忠
- 四十一 文勢公忠
- 四十二 文勢公忠
- 四十三 文勢公忠
- 四十四 文勢公忠
- 四十五 文勢公忠
- 四十六 文勢公忠
- 四十七 文勢公忠
- 四十八 文勢公忠
- 四十九 文勢公忠
- 五十 文勢公忠

本朝畫師傳目錄 上



百僧季美

晉 雲心

晉 家用

晉 孤月

晉 海

晉 守教

晉 等波

晉 巴泉

晉 雲美

晉 長谷川

晉 傍執

晉 文勢

晉 慶

晉 賢

一 晉 僧玄

三 晉 子

晉 雲

晉 清

晉 月

晉 繼

晉 祐

晉 長

晉 僧

晉 人

晉 法

晉 慶

晉 德

晉 慈

世 登

世 僧

世 人

世 道

世 式

世 志

世 僧

世 後

世 式

世 李

持野家世所用是法目錄

右月本後傳目錄終

一 山水是法之序

二 人物是法之序

三 花鳥是法之序 付志終

四 和服布是之法式

五 髮際是極之法式

六 屏風・床・障子・畫・墨・法・式

七 榻・戸・之・墨・式

八 柳・障子・之・墨・式

九 扇・西・之・墨・法

十 卷・軸・之・墨・法

十一 押・絵

十二 硯・之・形・墨・糸・紙・法・類

十三 絃・之・具・之・墨・法

十四 洞・合・絃・之・具

凡十一種

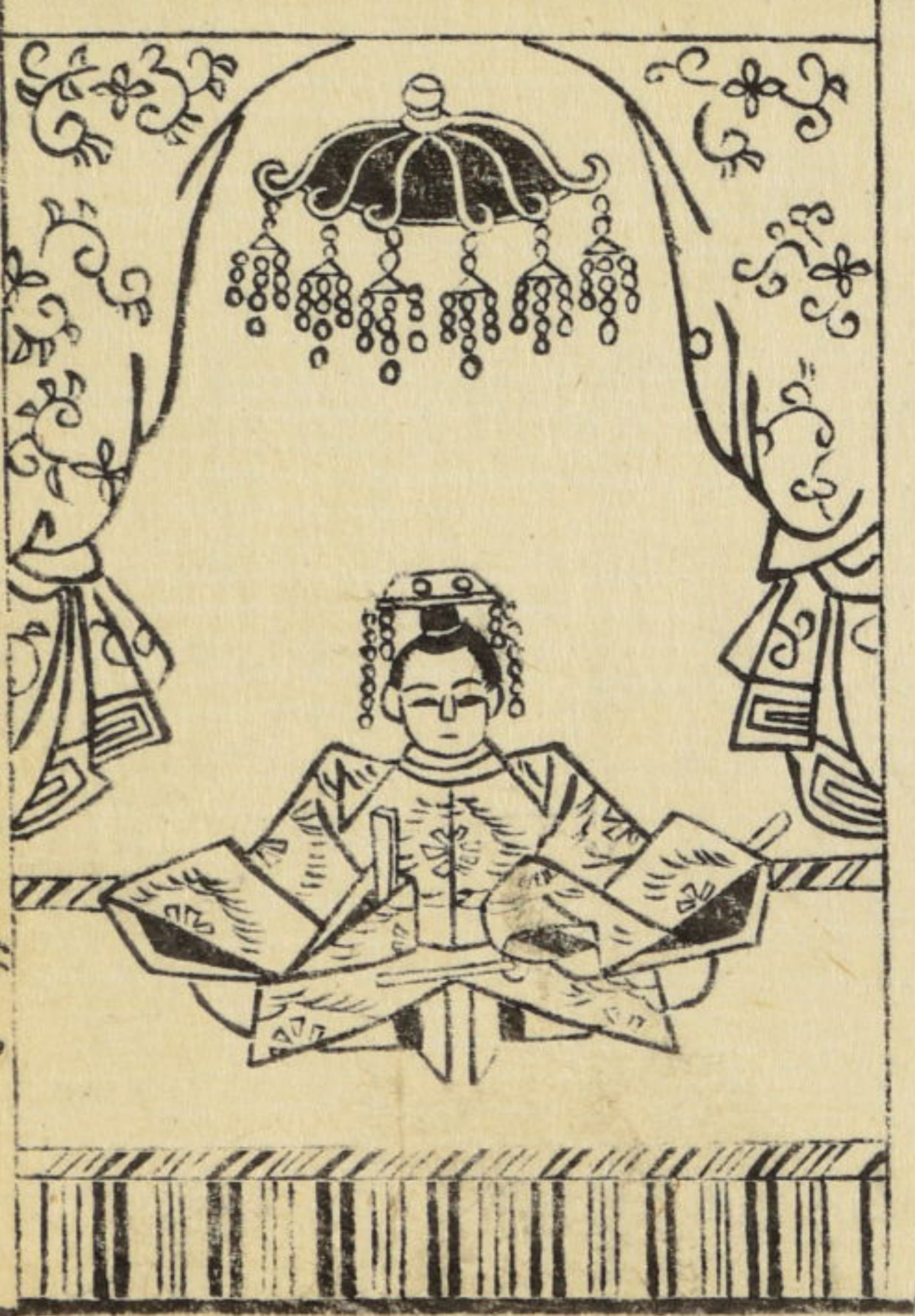
ホシテウガワヨキセンジン
本朝墨工傳

聖徳太子 自畫乃傳

雅波天王子の墨大さ常人の

墨西のて安座の墨

墨大方の柳の墨ありては
墨の法ありては墨力権傳小
墨の法ありては墨力権傳小



弘法大師 非公能師の思慮之
 又く本を以て用く其能非不
 公儀あり或は難登もこれあり
 今も唯心山ありの属同之感
 経を以てまよ書きてに而物れ
 とあるまよそ公儀の勝と云ふ
 小石使て用ひ給徒能智全別
 智ふを吾を長一法を以て
 自らこれ能ふ八品とあるに今
 の所も小あり



三 菅原相 天陽天作乃能あり
 世に自爲に能く其能非不
 教に主のく能非凡ふ小の
 された能く然もれなり海く
 向此能く其能非不乃能
 又又接列とれまれ社に袖あり
 物ありま其能く其能非不

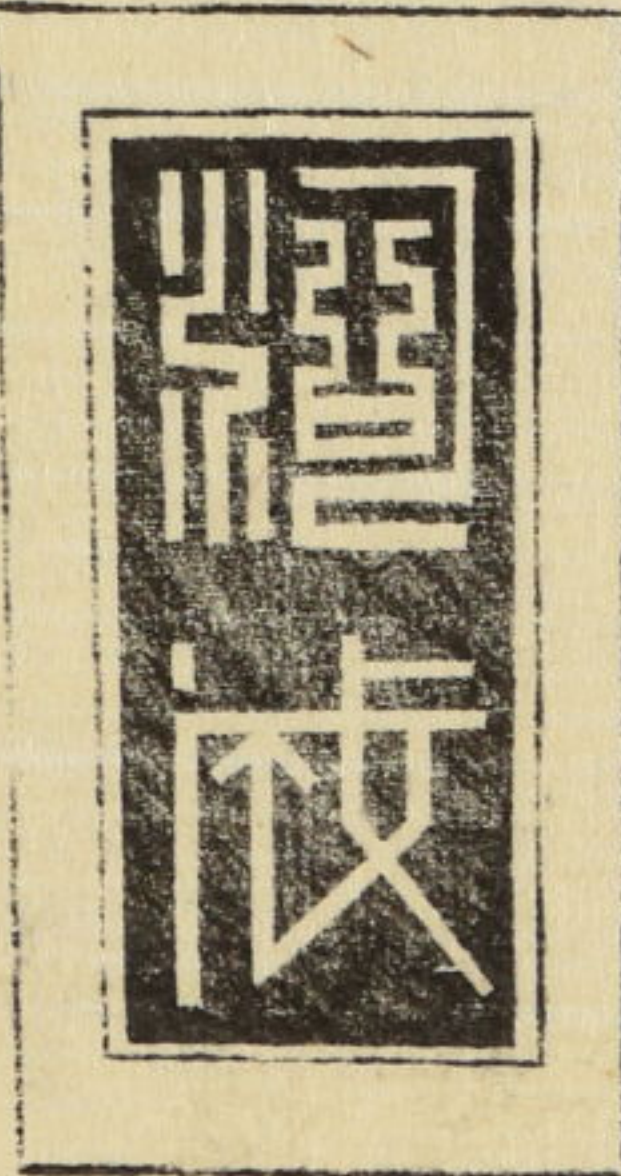


四 大長寸 魚信ふ云権畏天皇
 此世に能く其能非不乃能
 男能く其能非不乃能

意なきくまの天勢を思はれし
 姓と和名所と流りの縁遠き神
 儀素を云ふ年小又大思す此縁
 と流りの子孫を後名入人相り
 とは年奉をさす久しくさす
 然るるすす本朝屋之伝巻の男
 流るるをめぐらるる

五
 百流河成 本姓の家を結ぶ
 百流乃の分り申く姓百流
 む身勇おあすく流りて引大向
 二年小方とあす又うく思
 あり写す五山人地山川等本
 三か自うくせむるるる
 又申く成人とも口は流る
 流るる人地流るる流るる
 河成一紙とすくそ流るる

さらどあぶてんをくれの利を
 後とるる人となりの地
 之の流るる流るる流るる
 と河成小なる物と流るる流るる
 流るる流るる流るる流るる
 乃内流るる流るる流るる
 さら流るる流るる流るる
 人と流るる流るる流るる
 めく一産れ自と流るる流るる
 文徳と流るる流るる流るる



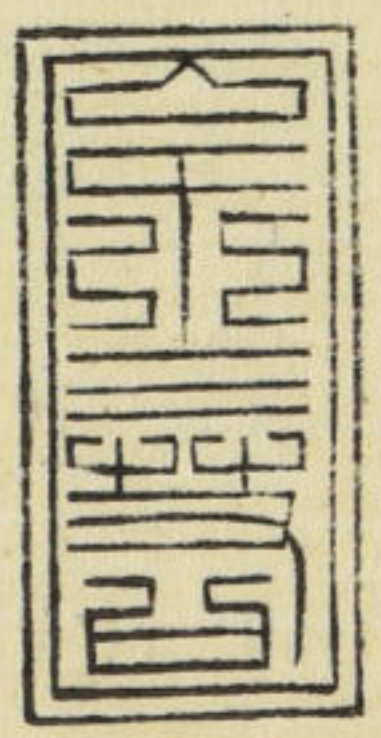
百流河成
 卯文

六
 紀八全君
 紀あり 系保 秀天子 初月

本朝金印
七

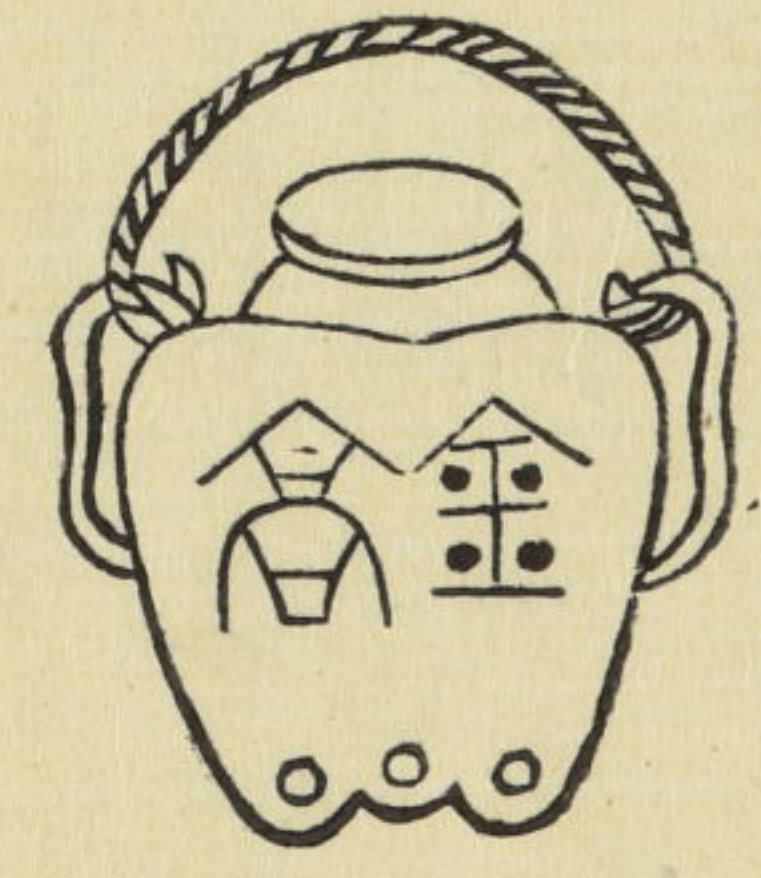
新く号す仁明天皇御宇年
清涼殿乃る御衣掛けの御衣
袖云々の云々縁云々
八百六十四年

金若印文



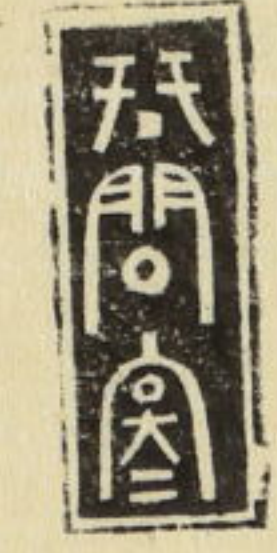
紀金高

印文



紀金持

印文



小野

能とみと終も又終ふの歌

古今乃名士あり

文抄乃金是 隆和帝より迄

乃此軸ふのの徳徳の人の

又此衣履有れいさ一東西の傍

ふ小賢聖れ徳とあけりあ事の

山とあり又よくあ事成るむか

えり古史おんころ仁平小秋

真とけりる先聖先師九世乃

徳の産産成りく果後さるあ

或は此徳小徳の産るは徳とれ

てこれと徳徳とよくそ并とあ

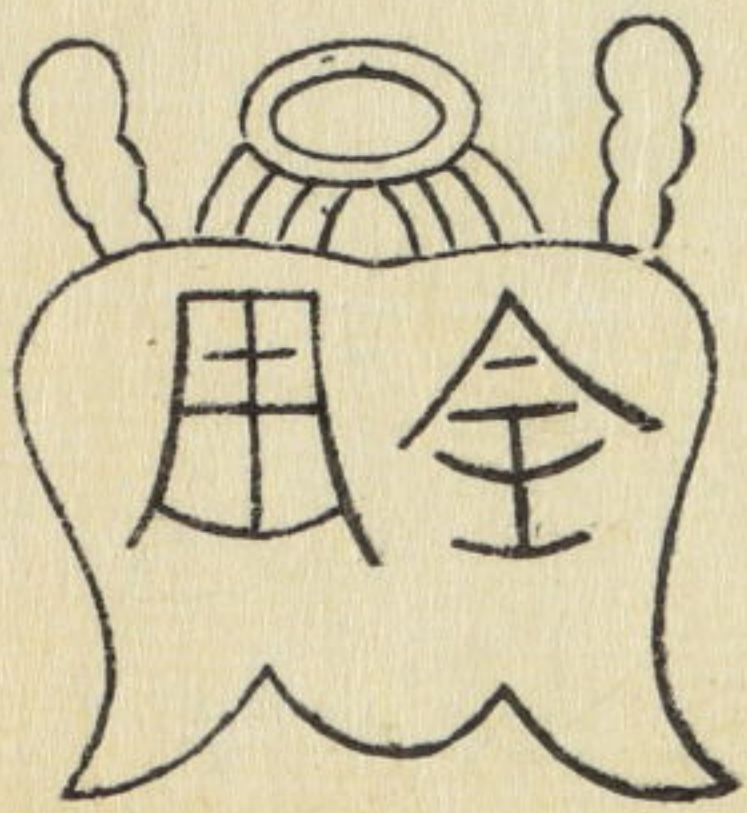
より又此徳小徳の産るは徳

とれ田るのぞく橋苗と心甲入

一、その服とて、くわくくわと奇とやうり
 色世は、後物とあり、質を、其後、子と
 ちかく、内判、髪、ふ、飾、髪、と、あり、飾、髪
 小巾冠、と、い、ふ、と、か、ら、と、あ、い、い、て
 宸殿、ふ、つ、の、も、と、あ、ぐ、と、い、ふ、た、う、の
 傳、字、の、も、と、あ、ま、り、く、も、と、あ、い、い、て
 り、款、と、い、ふ、一、九、を、あ、ぐ、と、い、ふ、後
 あり、く、と、い、ふ、ま、れ、り、も、よ、お、見、よ
 子、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、孫、方、紙
 後、と、い、ふ、後、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、後

巨勢金世 印文

出火天の



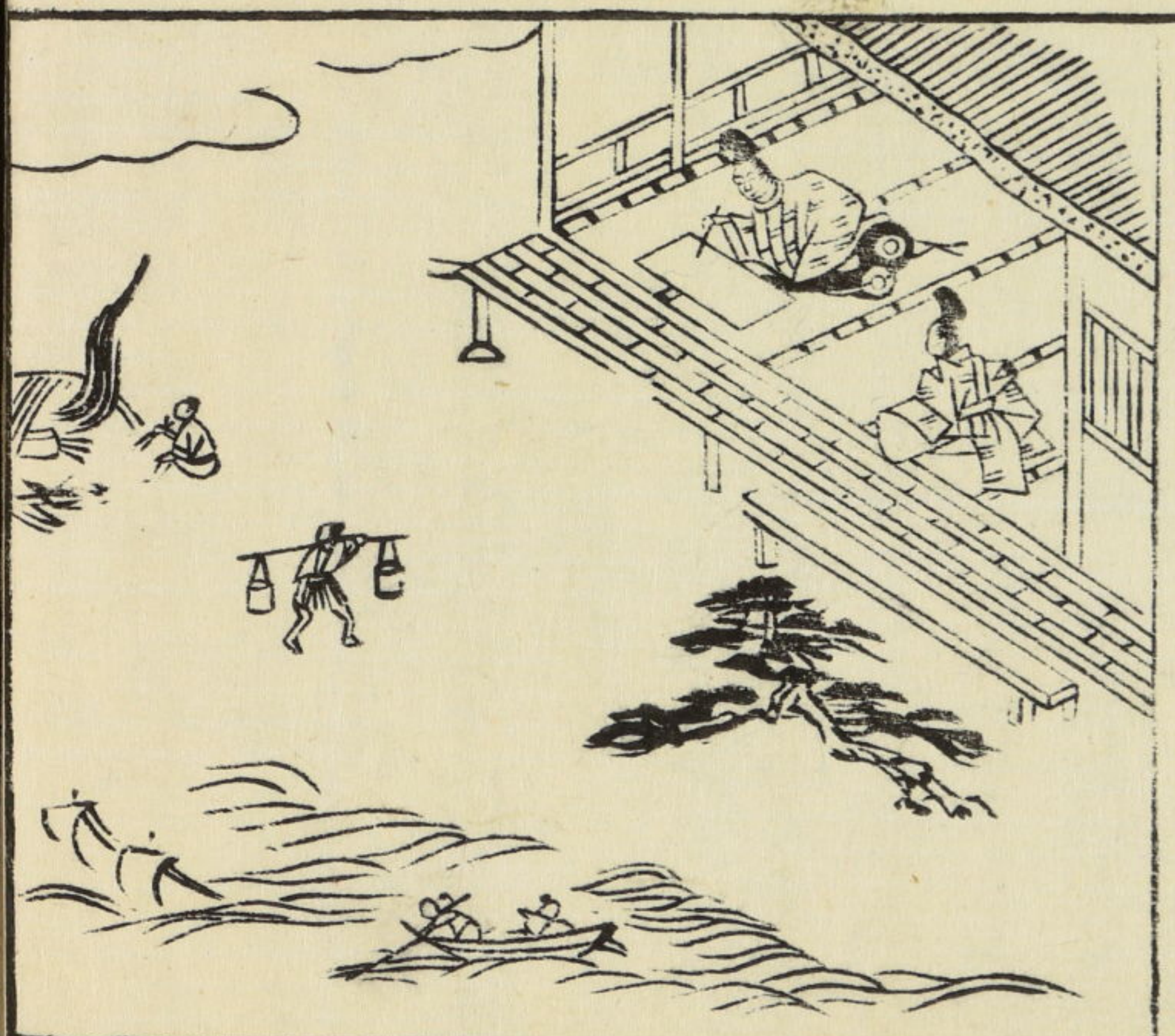
又、勢、お、え、又、お、覧、と、い、ふ、家、女、と、い、ふ
 林、と、い、ふ、平、年、中、乃、く、金、世、が、子
 あり、後、波、お、月、は、後、下、源、氏、後
 命、乃、と、い、ふ、竹、と、い、ふ、乃、孫、の、子、乃、孫
 文、勢、お、え、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ

一、その服とて、くわくくわと奇とやうり
 色世は、後物とあり、質を、其後、子と
 ちかく、内判、髪、ふ、飾、髪、と、あり、飾、髪
 小巾冠、と、い、ふ、と、か、ら、と、あ、い、い、て
 宸殿、ふ、つ、の、も、と、あ、ぐ、と、い、ふ、た、う、の
 傳、字、の、も、と、あ、ま、り、く、も、と、あ、い、い、て
 り、款、と、い、ふ、一、九、を、あ、ぐ、と、い、ふ、後
 あり、く、と、い、ふ、ま、れ、り、も、よ、お、見、よ
 子、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、孫、方、紙
 後、と、い、ふ、後、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、後

とあり常例がらうる居候又ま記
 物うりお洋ふあり

飛鳥部常則

印文



子枝 世世伝ふすすふらんも洋
 夫ありず常例同内の番師あり
 信興義 三井もふ信を番師に
 成元 姓氏と云くす後信興
 とまつり家院乃孫子ふ信と云
 くれまればまて終結ありてこれ
 初付より

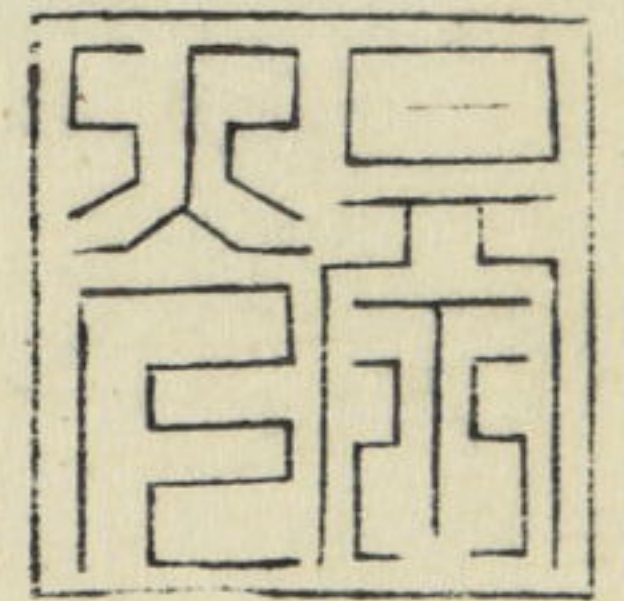


本朝金印
廿七

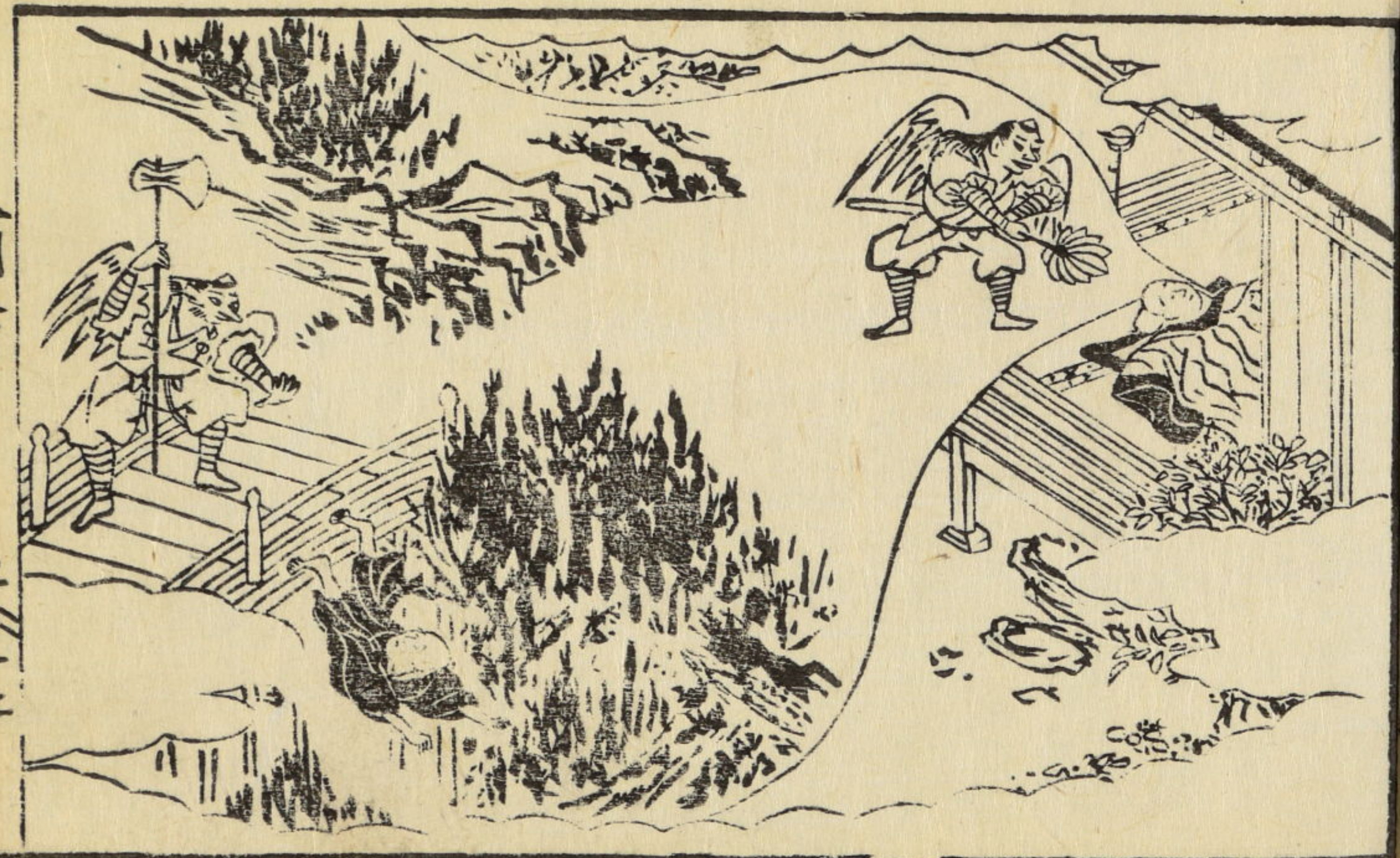
乃く川をたぐり魚を食ふの孫也

基光

印文



備前珍海 龍形を以て孫に
 傳す其氣を好めり四代公より
 三傳之實院定海は孫海也
 是く曼奈羅丸と云ふ
 孫海辭を以て書すゆゑ
 あり山形孫海が長小あり
 孫海が長つれ有るゆゑとせ
 て孫とより孫海とせり孫海
 免く孫と別れしんこの孫
 けられし孫と別れしんこの孫
 けられし孫と別れしんこの孫

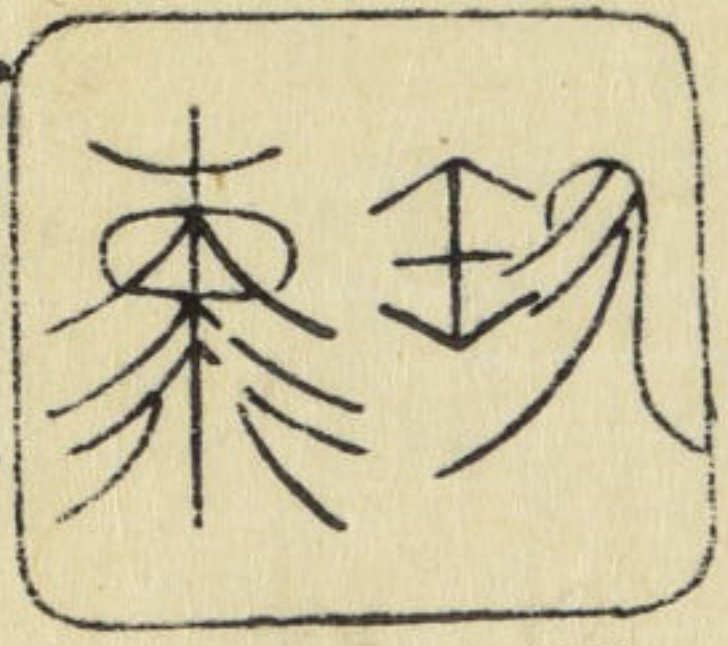


本朝金印
廿七

終不死せりとて醜くもいふ事
 文殊菩薩と云ふに法と云ふ
 月のまかりと云ふに記せり又云
 後米倉院と云ふ年中乃人
 赤大方の已得基と云ふこと
 堂に在る信記のまゝと云ふ

珍海

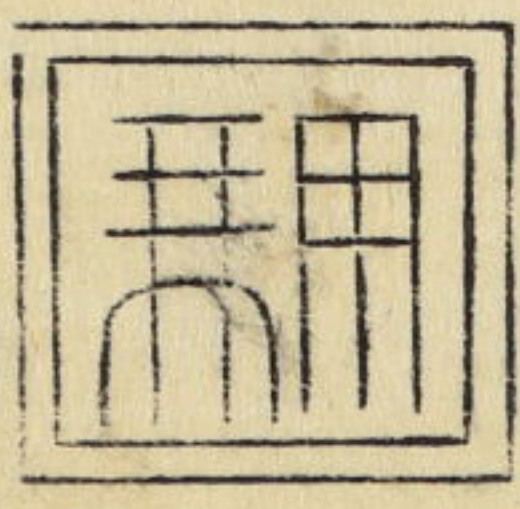
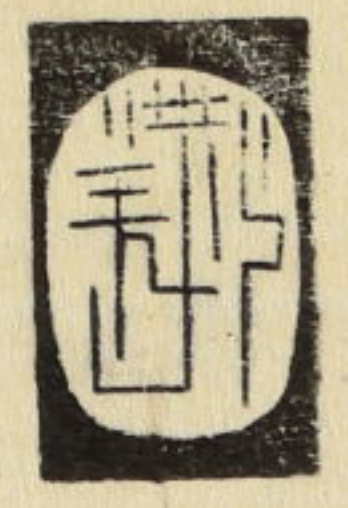
印文



延長公主 鎌倉公方
 人なり忠実公と云ふ書
 りれと云ふ事と云ふ一
 たりと云ふ事と云ふ
 愛公と云ふ事と云ふ
 赤心信記 屋敷あり

赤乃公と云ふ事と云ふ
 一又十家乃公と云ふ事
 當森と云ふ事と云ふ
 書と云ふ事と云ふ
 けと云ふ事と云ふ
 後米倉院 赤心年中
 乃人と云ふ事と云ふ

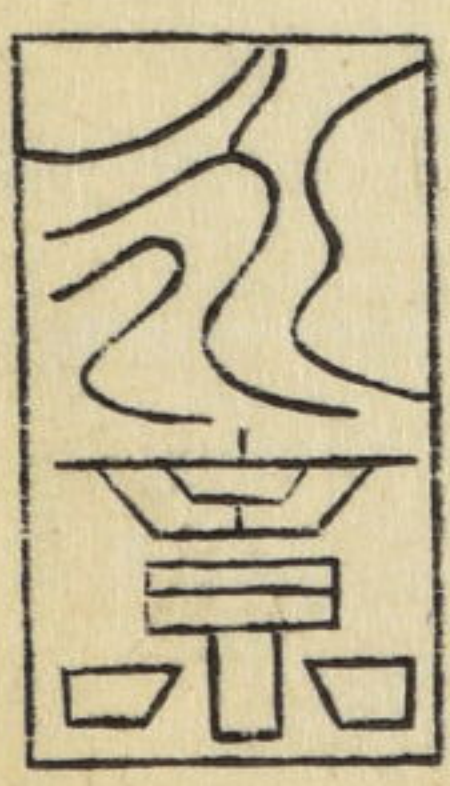
印文



永云 信記
 信記と云ふ事と云ふ
 信記と云ふ事と云ふ

永意

印文



赤心信記

新編御成敗式目抄

るどあがれまると云ふ定處

乃照光祀あり

後多倉院乃皇子

守父親まあり登野と好むひて

後衣乃放言とあがれまると云ふ

照光祀あり

後多倉院乃皇子

和奇と聲と一日世小冠より

乃多能ふましくして後もまゝ

たるとり今賀乃神主松乃

下りあふ自る自徳乃善徳并

宿願ありけり松の下が先祖

氏久のともまれ末子成ひて神

乃多能ふましくして後もまゝ

たるとり今賀乃神主松乃

下りあふ自る自徳乃善徳并

宿願ありけり松の下が先祖

氏久のともまれ末子成ひて神



後系松橋改良經云 九系

乃多能ふましくして後もまゝ

大相書

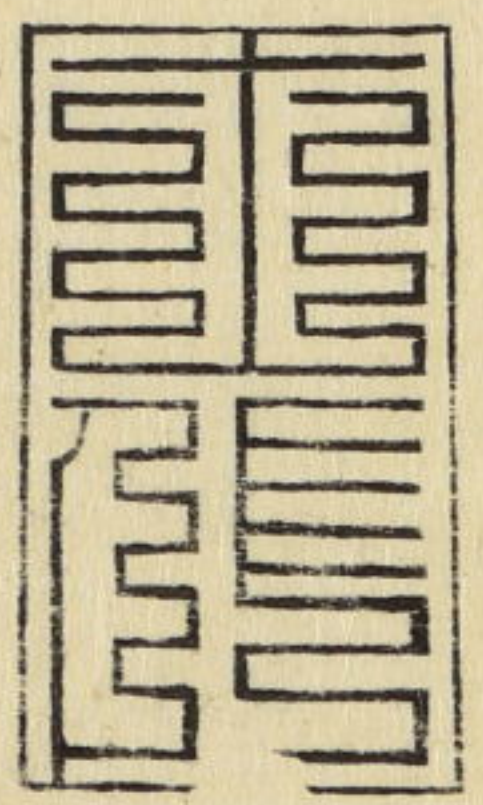
其記と後系極と稱す。如きは善
 逸の也。よき事あり書法は善
 時三法は一あり。斯くは故て
 終とあるは。あるは。故て。人
 これと稱す。善賢なる。年長
 系極の。善賢の。天下。一師の
 故。よとせり。後半。後相。あり。



隆信 隆中納言長良の齋藤隆信

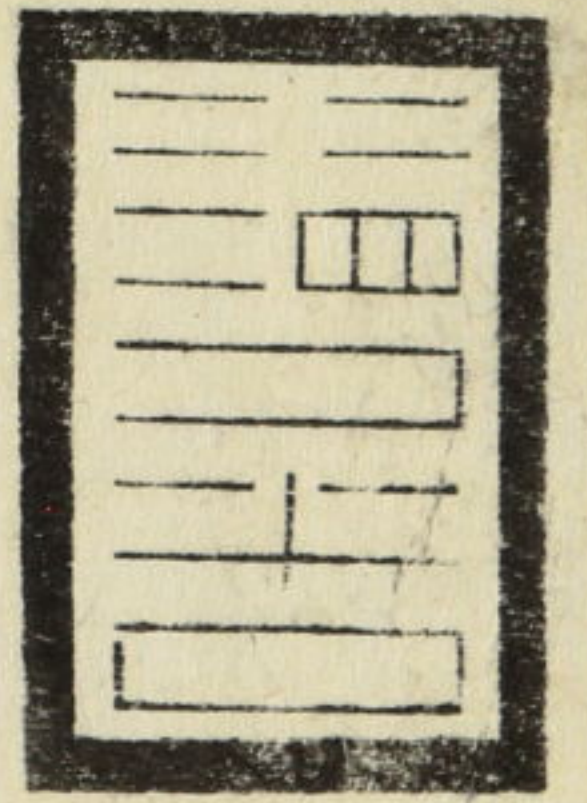
大后宮の太皇太后の子。長良は
 太皇太后の御孫。下上總司。長良は
 元暦年中の人士。作者。乃。長良は
 長良は。好く。ま。ま。又。人
 あり。風雅。多。撰集。よ。あり

隆信 印文



長良は。善賢。大。門。院。正。治。年。中。乃
 人。長。乃。隆。信。乃。子。あり。故。て。稱。す。水。流
 乃。支。那。の。使。人。と。一。対。小。あり。乃。子
 あり。右。系。極。太。皇。太后。の。御。孫。也。和。家。の
 二。小。又。善。賢。と。い。ふ。中。世。の。好。ま
 ち。り。毎。日。人。の。像。と。あ。り。く。金。を
 好。く。珍。重。と。す。乃。子。と。い。ふ。世。の。好。ま
 人。丸。の。像。あり。と。い。ふ。故。て。稱。す。

瓜



弘安九年四月

示曰

法橋院流繪印

信正位藤原長隆

卷



平 右ノ字大ナリハ幅一寸餘アリ
長素 紙前チヨクニナカクハ
五 小納言リケレ子アリ

五 信家位 能登アリ 山法下トアリ
藤原信家 能登アリ 山法下トアリ

津長福チヨクニナカクハ
津長福チヨクニナカクハ

乃宸系ノ信家位ガレトアリ
乃宸系ノ信家位ガレトアリ

乃孫源隆五乃子アリ
乃孫源隆五乃子アリ

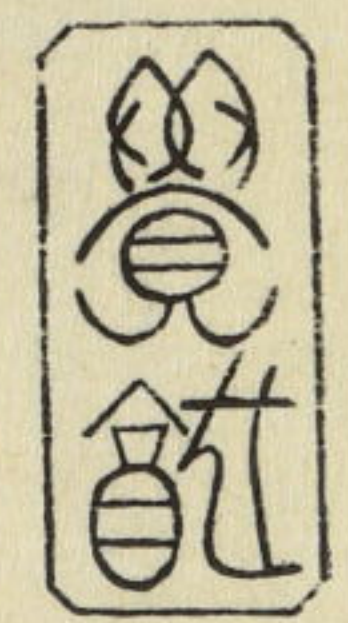
乃乃孫源隆五乃子アリ
乃乃孫源隆五乃子アリ

乃乃孫源隆五乃子アリ
乃乃孫源隆五乃子アリ

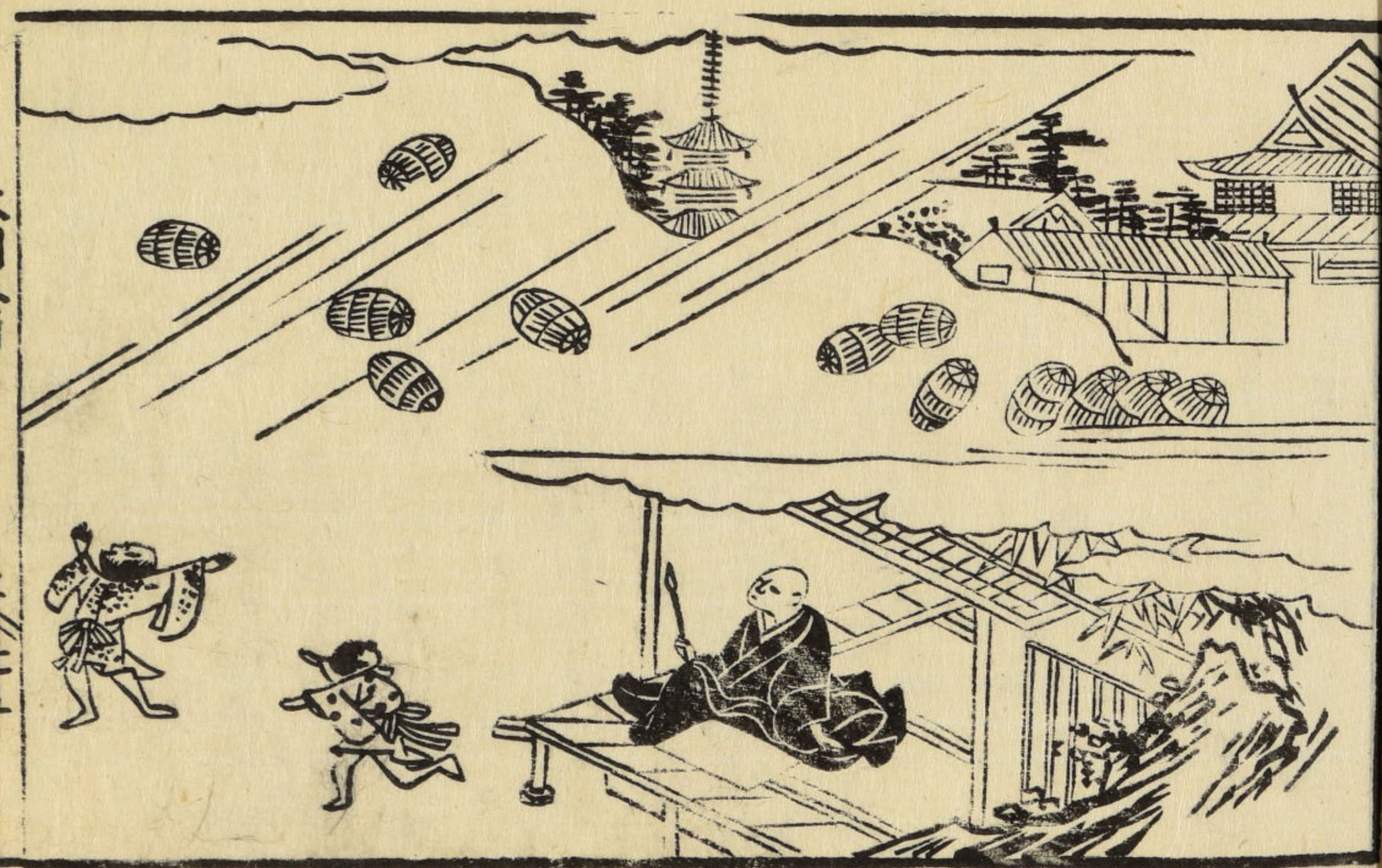
乃乃孫源隆五乃子アリ
乃乃孫源隆五乃子アリ

好曲あり元融戲まに茶儀乃
 風吹ぬく塵をひらりかき
 こと多しは是と稱せりはるす
 小多し一依然とありは法のよく
 小納めむ監主と能く又天深
 十二匹乃て成えぬ小多し
 とはり今世に流布する後多し
 元融の融融天自其末商六象院
 仁安年中乃人あり

覚融印文



小聖傳心 倅ハ能後ニ岳家小聖
 流乃一員あり是も又小聖傳心
 号す是もよくす故に元融と



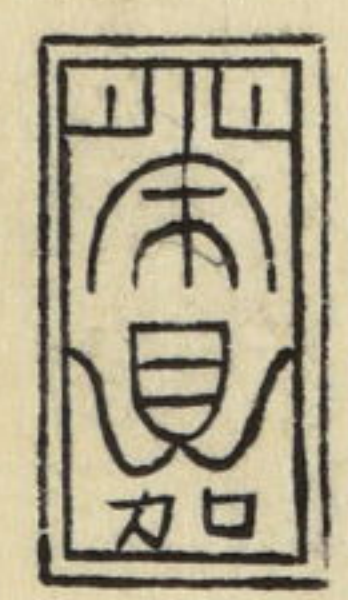
大相宗

三三

候一ニ辨乃靈徳あり院如
 元と徳上入小乞てあつらん
 とすの意乃日凡眼ふこれと
 世及世とくは及善ありん
 志め一より志めてやまひ
 一は志つてくゆりてん世後
 徳かふひそらんく徳丹ふの
 一がみんよりく系教小徳
 る河西山乃よりゆく系陰
 て死ふより上人乃辨知とて
 徳りらるる志より今志磨り
 徳明徳ありは及終成は
 志願任ふ去達久二年ふ新ふ

屏風と生り勝かるとして十二天
 どののさむむを権字の順位の二氣
 報主の中是乃名正なる名とく
 宅廢業如又業可と書つ八和
 小得す法眼ふ叙すけつ一院如
 が商り方音然志しす釈如
 善徳の三と志とく自うと
 と書すを依徳彫り字龍眼
 輝みとより乞より先ふいさく
 秘らるるを字す業如とめ
 和及古風と愛して新と中
 志乃業法とまあぶらるは二條
 院院元年申中の人あり

榮賀
 印文



けり公儀とあぐくまは後所と
 けり又度甲とまのれをまかこ
 おこれおたす

隆光

印文

西米田日法眼

其法眼燃賢 南於あへる乃
 統 強とあせり
 海 世ふれと其法眼と極す
 南於興福もあ大さふもあ
 く五招初 去日安居乃成
 世後乃新美乃厚風をこれ小
 心くこれこれ去日法所
 良秀 世世公ふらす佛登
 二のり一日辰初火小あへり



能秀のつれてまゝいかり服瓜
付くぬ家れ燻る瓜んぐり中
とくしてわくくつりね知れあ
てまぬとまか今まのひの焼
乃て此のり成るれが我まぐ所
の不執るれ大英とえりこれ
聖又業ふあうまやまの百子
盛成焼たばいひのひのあう
とより後世あうまうくまふ
執せりまめく奇物とすう治
牛猪まよあり
まのまの法屋のり法屋と人一
津出とまらう又まの天師と
足解く後まままもひたれ
んつあうまうまの法屋ま
つまの天師の盛成後ま

是とんるん屋中ふんる木の徳と
毫末もより守るは終まの
とまをて世に留る屋中乃其守毛
と那りと人の盛成よあり
お作局 待賢門院小はへ心官
女々の女性屋敷とあめりまの
山下は金屋院ふ待賢門院の
まありお作局とておまの
乃地屋敷を操るおまの
文紙のり奇の法屋の屋下
お作局
お作局と人 宅磨るま
原うく書法とまのりた
みり或のふまを法とて梵形不
物まの法とてまの法とて
ぬありの法とてまの法とて

六月廿二日

十一

性量と好り時小異濁るの意
小愛好其好性もよく其人それと
好り上人不執乃徳と徳量乃徳
聖小愛好のよく其好性もよく
小滞失一なりとありん
於此上人 一く量とあり
始ハ赤山泉涌古小住一又徳也
徳よく好り量小量家の量長
とありてして其乃一流とあり
常小不執乃徳と徳量乃徳又一
勢派よく好り量長家の量長
法宅磨任言あり世小於形
於上人乃不執と好り
介法橋 姓名詳小ありす橋列
後一乃人あり一く好徳とあり
そ後小云達長六年とあり介り

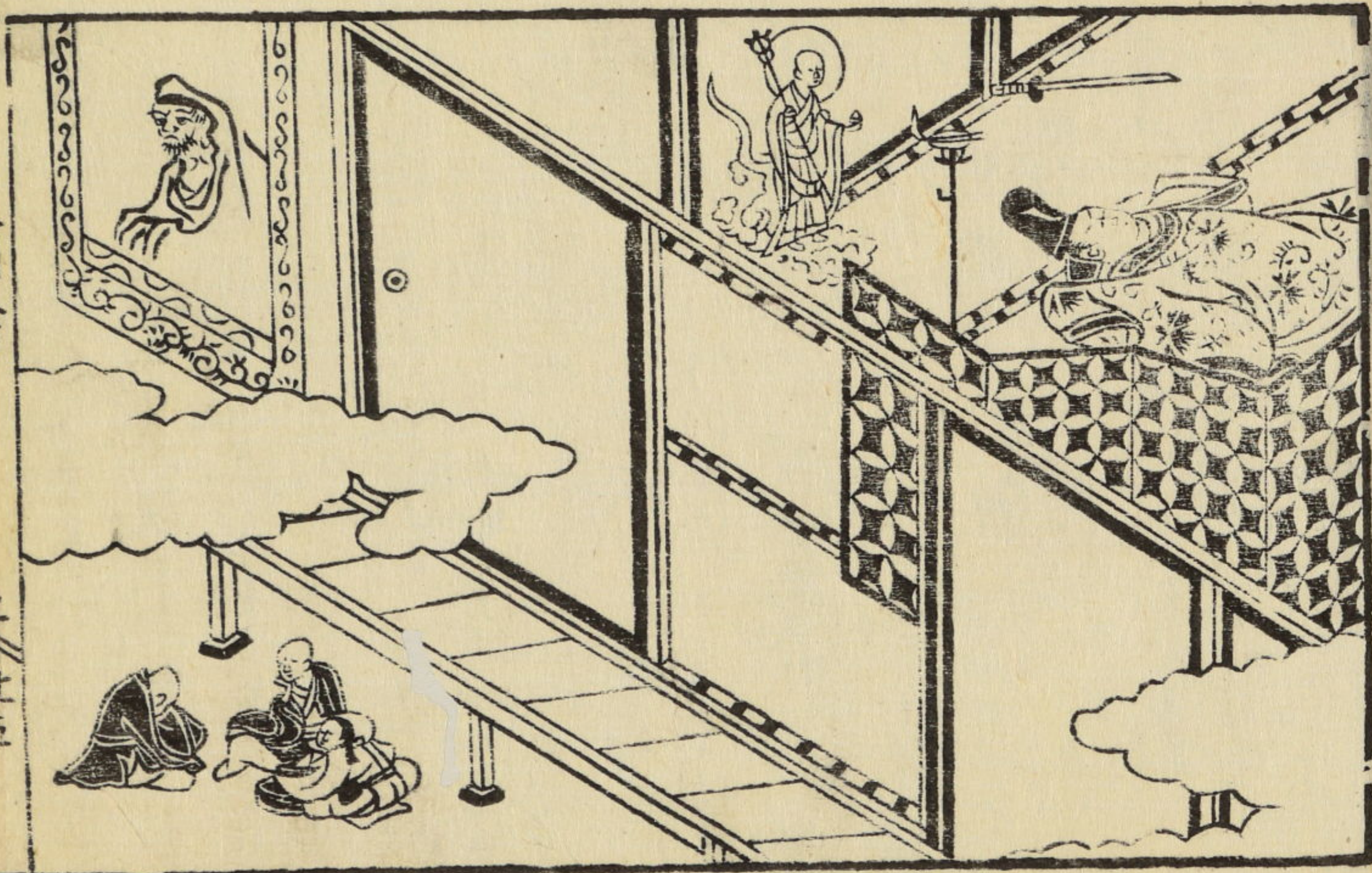
子成唐也と稱一 某子と能た
てそ家とあり
日蓮上人 法名徳義塔小乃
とありにあり世小日蓮乃名と稱
一其家乃小住り 彩色細也
命後ありそ外小難量ありす
大義の 姓名詳ありす日蓮大
義一く大黒天の徳とあり一先
後修成と小ありる物性一
これあり又日蓮自像とあり自り
勢一なる物もこれと或ハ天祥の
像と書る物もありこれあり
蓮乃 書云大義と義判賢一
蓮乃とあり永仁六年の以種念
乃其族は蓮乃とありて度氏善徳
和尙乃像とあり一又云徳とあり

大義判賢
蓮乃

忍性房小あらしきるるの状乃末
 小みくしりい畫物大和招提寺乃
 寶藏小あり筆法ハ毫毛より出て
 稍優柔あり體法和尙ハ末乃
 傳あり我公乃同款ハ中委小は
 多るるを故小中委小乃
 矣とあるす

圖傳 法眼小ぬす正安元年小
 六条乃場一色上人乃縁起十二卷
 とあるが筆法毫毛乃伝小ぬすり
 之山川村石於雲糸熟意味わ
 全まりるる物あり

文親傳正 しく龍吟乃傳公多ぐ
 又為大師の像と多ぐも筆力
 あざくあらず又外ハ難と見
 すの状ハ本記並小伝有縁を



多カウラコト
公^{タカウラコト} 号持院と号す光明^{クワウミヤウ}
院^{リヤウコウ} 号^{シヨウ} 持院と号す光明
改^{セウ} 勢乃^{シヨウ} 院^{コウ} 号^{シヨウ} 持院と号す光明
平日^{ヘイニチ} 院^{コウ} 号^{シヨウ} 持院と号す光明
て^{サツ} 院^{コウ} 号^{シヨウ} 持院と号す光明
何^{ナニ} 院^{コウ} 号^{シヨウ} 持院と号す光明
又^{マタ} 院^{コウ} 号^{シヨウ} 持院と号す光明
ま^マ 院^{コウ} 号^{シヨウ} 持院と号す光明

親庵二年

六月

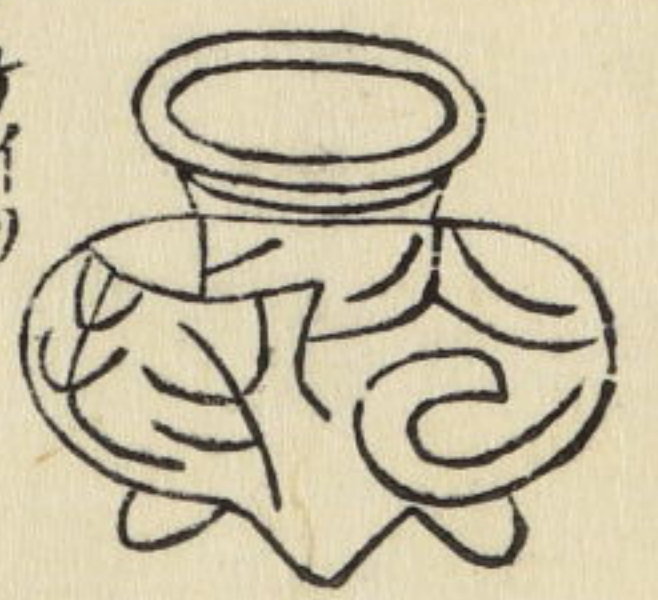
尊氏公
書印
仁山書

院^{リヤウコウ} 号^{シヨウ} 持院と号す光明
改^{セウ} 勢乃^{シヨウ} 院^{コウ} 号^{シヨウ} 持院と号す光明
平日^{ヘイニチ} 院^{コウ} 号^{シヨウ} 持院と号す光明
て^{サツ} 院^{コウ} 号^{シヨウ} 持院と号す光明
何^{ナニ} 院^{コウ} 号^{シヨウ} 持院と号す光明
又^{マタ} 院^{コウ} 号^{シヨウ} 持院と号す光明
ま^マ 院^{コウ} 号^{シヨウ} 持院と号す光明
院^{リヤウコウ} 号^{シヨウ} 持院と号す光明
改^{セウ} 勢乃^{シヨウ} 院^{コウ} 号^{シヨウ} 持院と号す光明
平日^{ヘイニチ} 院^{コウ} 号^{シヨウ} 持院と号す光明
て^{サツ} 院^{コウ} 号^{シヨウ} 持院と号す光明
何^{ナニ} 院^{コウ} 号^{シヨウ} 持院と号す光明
又^{マタ} 院^{コウ} 号^{シヨウ} 持院と号す光明
ま^マ 院^{コウ} 号^{シヨウ} 持院と号す光明

下小叔す高麻より跡部氏志
 ぐく同族たりてそ規程也
 こふす又傳ふ云光重の子孫部
 お猶とのふま子世しく後續か
 一光重の女持聖元侯小松と
 比坂小松を婿元侯後所の孫と
 あり又其長年中必去作久款
 と云ふあり泉列境津小居候
 志く登業紙をせりけり去作
 家乃氏族の是也祖家乃規
 縁とありお傳承なり今系派
 ありと云作氏と稱する云々
 け家傳りり此らもれり
 光持 系派は光伝り又とす
 り 廣用が亥名りいま可也

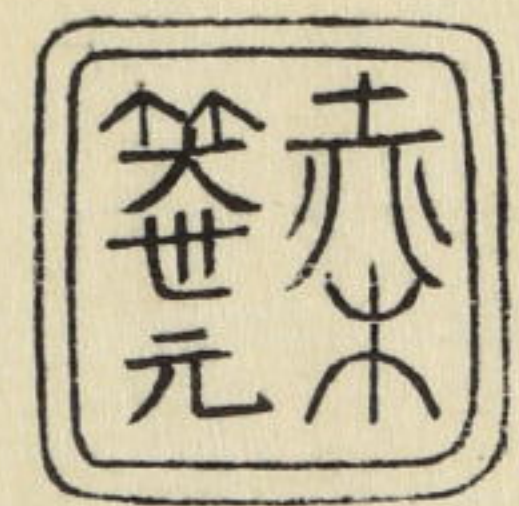
とあらず後小松院正徳年中
 乃人とき

光持
 印文



お保 光伝 傳承
 田家女とあり書置たふりり
 後去作門院文正年中の人

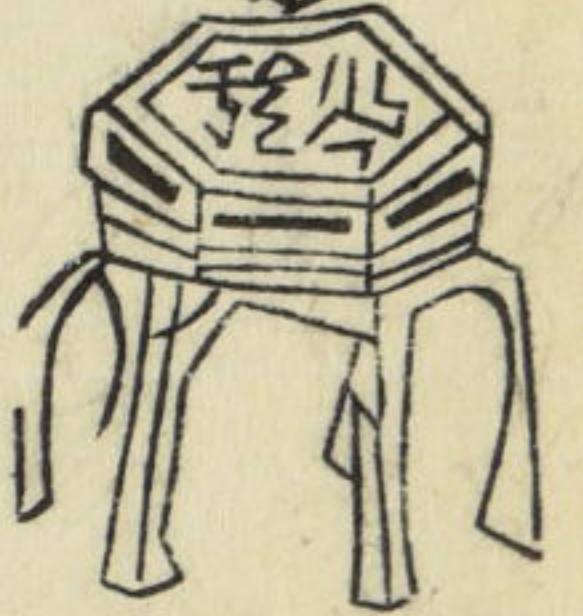
相保
 印文



後理 光純 道純
 此後系派小載り多傳記在
 直身人ありたり
 光記 去傳記傳記不也なり

印文

將監光起



道 彦 氏姓とあらず但一夫
 依忠志流りてく私益乃物あり
 と本信のあり十二支乃思於又
 人々の業とあすああり後より
 蔵書とあつりれたり
 百三 大伴光彦 光彦が裔ありを家
 と世とあす
 大伴 彦光 光彦が裔あり信小
 お堅とあつりて判髪志と信彦
 光とあつりて法名とあす忠風とあつり
 てとあつりて弟カとあす光彦小
 くとあつりて弟カとあす光彦小

又妙をあり

夏 大伴 刑部 律とあつりて信彦の
 もととあつりて信彦とあつり
 大抵忠法とあつりて信彦とあつり
 ぬれに積りてとあつりて妙を
 ありれたり

中世 彦之 名不

夏 大伴 和尙 偉尔とあつりて信彦の

夏 大伴 乃 貴子とあつりて信彦の

夏 大伴 乃 貴子とあつりて信彦の

夏 大伴 乃 貴子とあつりて信彦の

夏 大伴 乃 貴子とあつりて信彦の

夏 大伴 乃 貴子とあつりて信彦の

夏 大伴 乃 貴子とあつりて信彦の

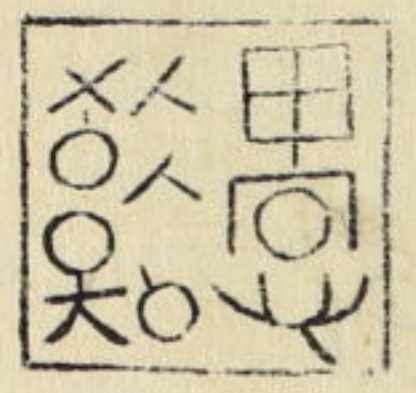
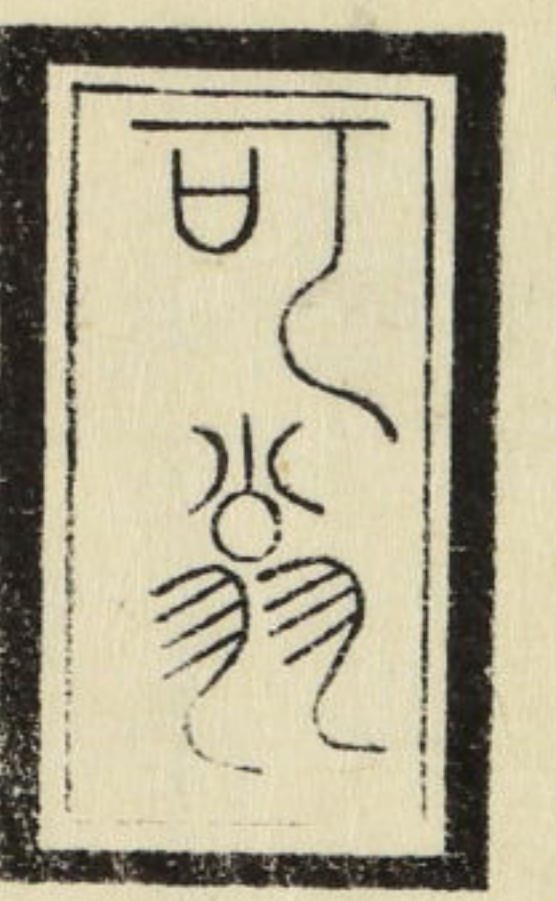
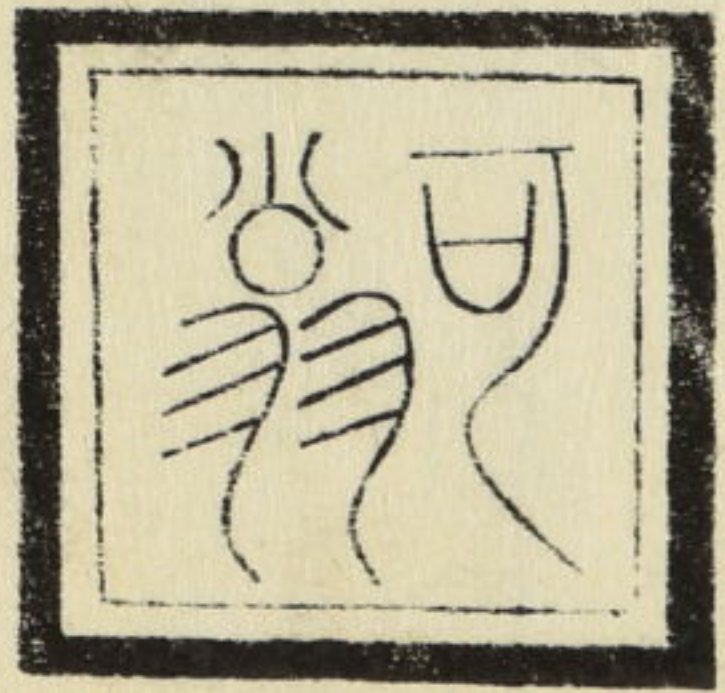
夏 大伴 乃 貴子とあつりて信彦の

大伴 彦之

上 世 九

ともあひの墨畫の牧溪とまのひ
 之の青法と極む故小墨畫の
 筆中より世人得く牧溪乃其
 ぐく和す又傳ふ家小令く
 海邦の後有稱す小徑と或は又
 生國統故人信名を詮と云く

可翁
印文



文和年中乃人なり

墨と和尙 字ハ因縁着隱國師

乃弟子達長七の任と墨後の好漢
と云く花を竹石とよくす亦力

見起

穢舟和尙 字ハ徳海着隱小派

乃弟子乃壽寺小住す後滅たを宗
院乃淵基たり墨ハ山あり花もふ

長一とてあ書とよくす彩墨と

早のりまんたり

氣店 お玉ち乃信たり墨表

美相めくこり漆法八素と云く
茶洞ありくも款五信子達西雲
もお玉ち乃信ありく別名氣店
と云く同の異り假と云く



先自空江易断魂
 蕭湘夜雨
 孤雲粘雨濕黃昏
 祇向竹枝添淚痕
 私心家淚何如
 多事於此西風
 之故家下子我知家

洞庭秋月
 西風剪出暮天霞
 萬頃煙波浴桂花
 漁笛不知羈客恨
 直吹寒影過蘆花

絳
 小和文天
 之故家真津白波



本朝金印
山一

雲遠寺晚鐘
設鐘不見梵王宮
此去上方猶遠近
為言只在此山中

善の家の方々々々
人も女々々々々々



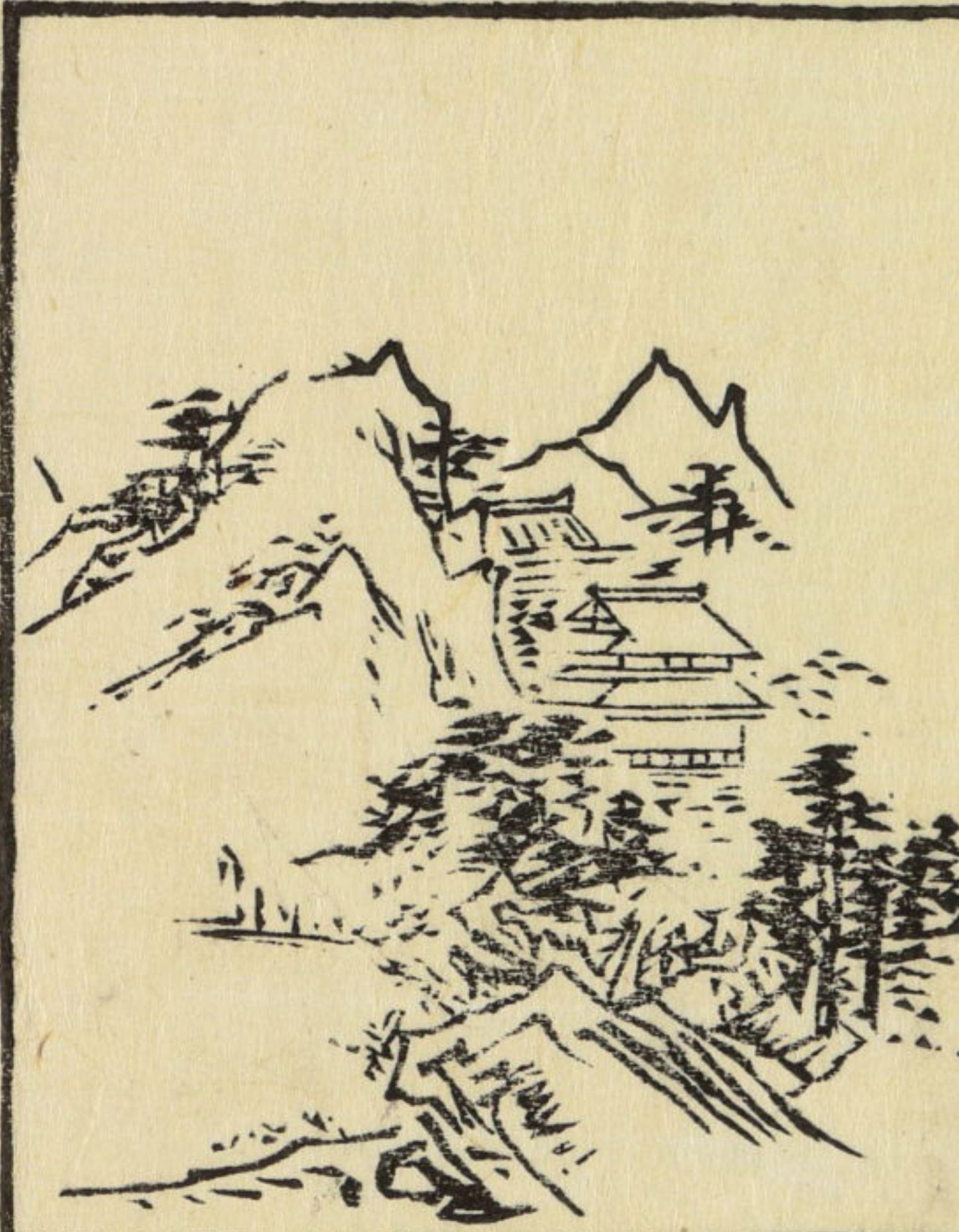
鷺遠浦歸帆
潮平銀浪接天流
歸橋漸入蘆花去
家在夕陽江上頭

風子々々々々々々
去々々々々々々々
人



江天暮雪
 雲淡天低
 一葉寄身
 前灣呷嘍
 疑是山陰
 乘興人

あつたふふよめくまの
 雪をゆり江の汀乃
 以海をゆり魚をなす

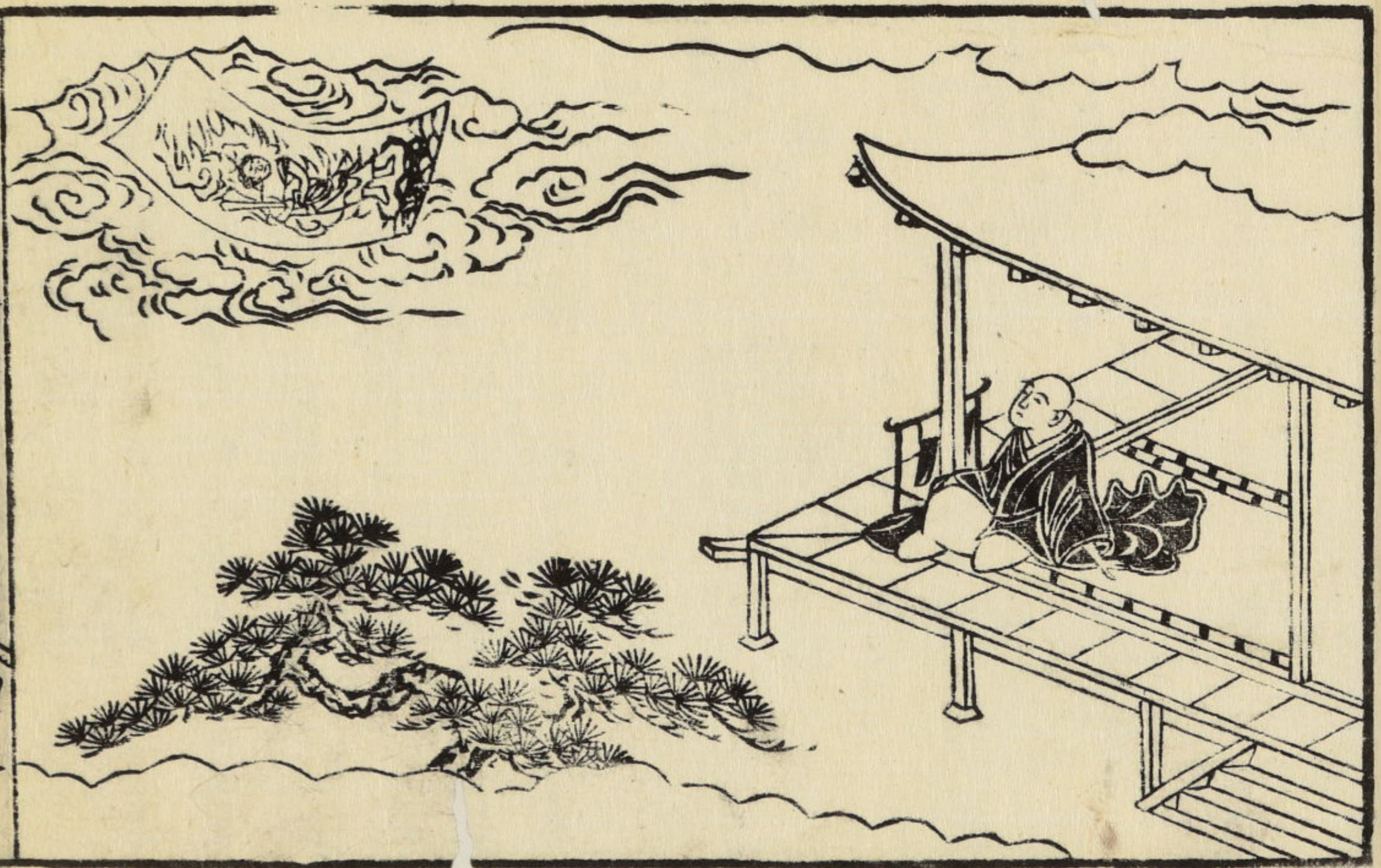


平沙落雁
 古字書空
 淡黑橫
 幾行秋鴈
 下寒汀
 蘆花錯作
 衡陽雪
 誤向斜陽
 刷凍翎

まのつたふふよめくまの
 雪をゆり江の汀乃
 以海をゆり魚をなす



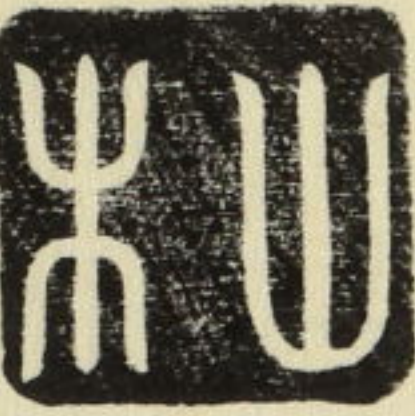
如澤和尚 皇 偉ハ月沢或ハ龍飲と
 号す其徳因師乃其子天竺より来
 學院お住す仏天は終てく玉沢死ん
 と歿し竊ふ怪詭擁護乃其ゆと
 行つて一々忽ち一紙用ふたぐひら
 此の坊にこれとこれハ不純乃偽なり
 これより毎日不純乃偽と云ふこと
 百日百事とてく其二年を約一日
 とかす其語もかたがたわく其去
 出小用く如沢乃不純と稱す又
 曇後乃達磨あり牧溪其群
 と云ふなり
 僧梵乃 皇ニ 玉階子と号す又知是
 行くその又梵と林と書り是と
 とく一毫符ち乃其屋ぬ能の女子
 かりの書物と其法とすかひ京花



乃州をどほりり多ぐふふ
 かめし時へ登上小竹心懸す榮意
 同義とさすふく物乃塚とむ
 所乃思ひ入る牧溪乃風あり又山
 多人物乃取らび新之れ物成んす
 之業竹乃雲後のも物表小紙
 せりしれたりの後小松院後永年
 乃人たり

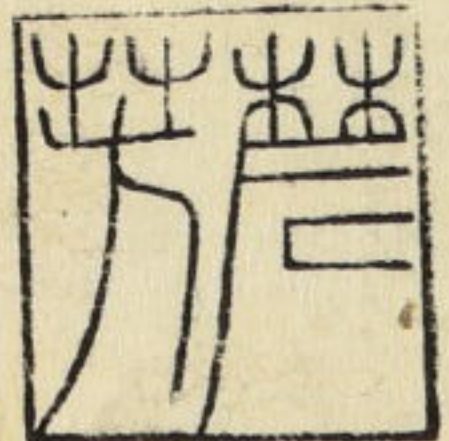
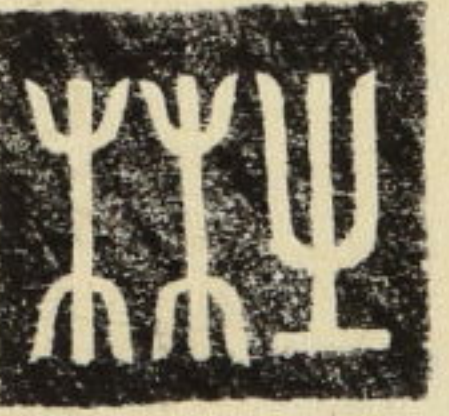
玉峴子

印文

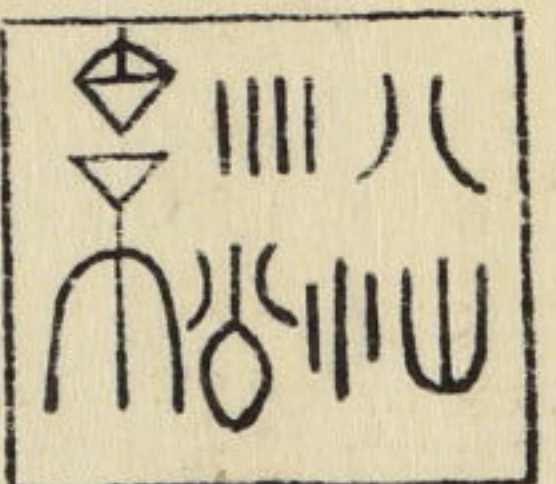


玉田死子集

ひまふたす



玉智子藏后



右大初字の幅を寸す
 鉄牛 百十三 玉智子乃方子方り相

國古乃信又よく榮と忍ぐ
 仲安和尙 律梵師又竹天竺と

号す善の法師乃方子乃常不
 執る乃び入天と忍ぐ兼法牧
 漢と忍びくも草筆あり意と

小勢くめ徳六年十一月前天竺
 松在梵師名とやそく或ハ不動
 と忍ぶく畫扱ふ書す日永年

梵師為忱卷五 皇宮寺

僧の地 兆奠子あり又吉山と
 号す漢師の人あり東福寺入乃
 乃女子と解つぬまより皇宮寺
 ぬく甚るご師 善ふかあり寺に
 師あり乃師と終せんといふ何れ
 皇宮寺精舎の舞妓たり師とい
 せんふ善くするをくを并ふ休
 それあり皆これといふ一寺
 とありを此皇法及初乃像の案の
 李統眠とまふひ又元乃新輝と
 まふははふそ皇武と月ゆき
 乃流乃とそつ天性自得終
 て并ふととく象元乃君にあり
 くとぬるれとく印 山ありを
 皇宮寺ふあり寺とと大仏像人

也小抄のくいの地本初寺一乃名
 皇宮寺ととそと皇宮寺大福の和
 一とそとと皇宮寺一乃地
 飛龍翔鳳乃と一東福寺ふ皇宮
 涅槃乃皇像の横式丈六尺 小様せり
 又百羅漢乃皇の皇の皇の皇の皇
 法とまあり皇宮寺建長寺ふそと
 徳と秘密との地これとと一とと
 東福寺にあり皇像ふ皇宮寺とあり
 皇宮寺乃皇宮寺今常不庵ふ
 つとありの以外十六羅漢乃皇四十
 八祖字が小福乃像を山指の聖
 因師乃像たの洪揚右の幡幟三
 幅射文壯りの正西連慶乃像
 正西白衣親善の像今院ふこれと
 仏殿乃門親善の像法堂天并

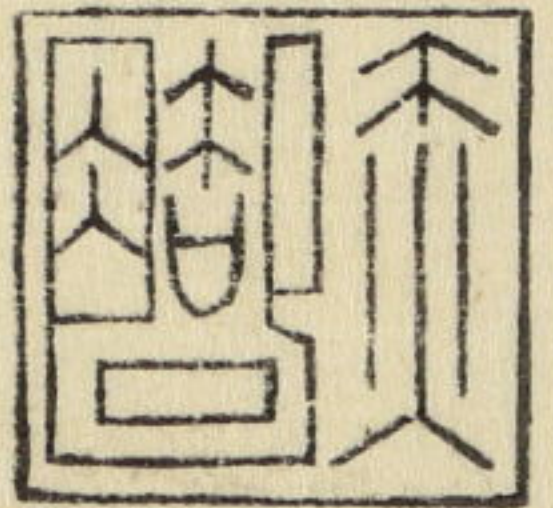
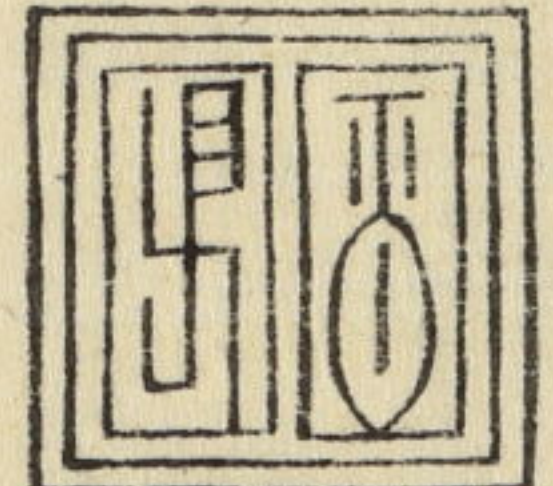
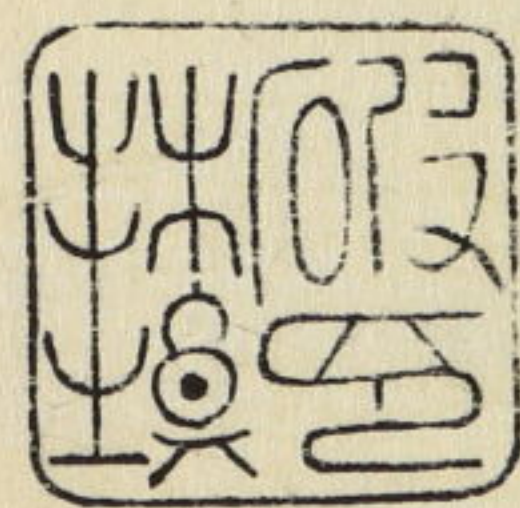
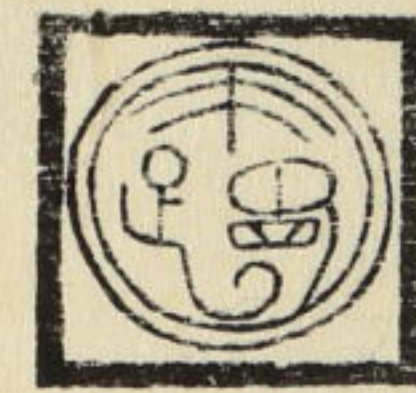
大月...
...



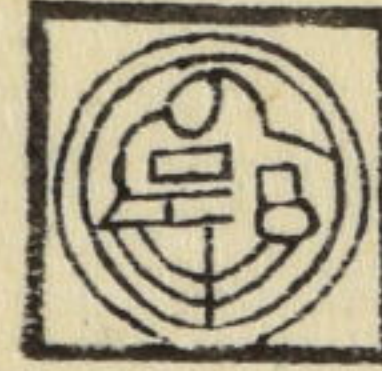
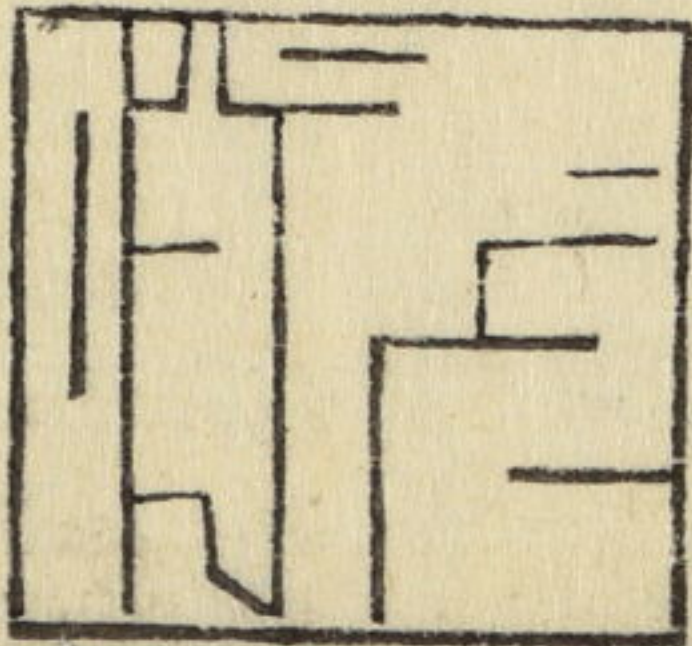
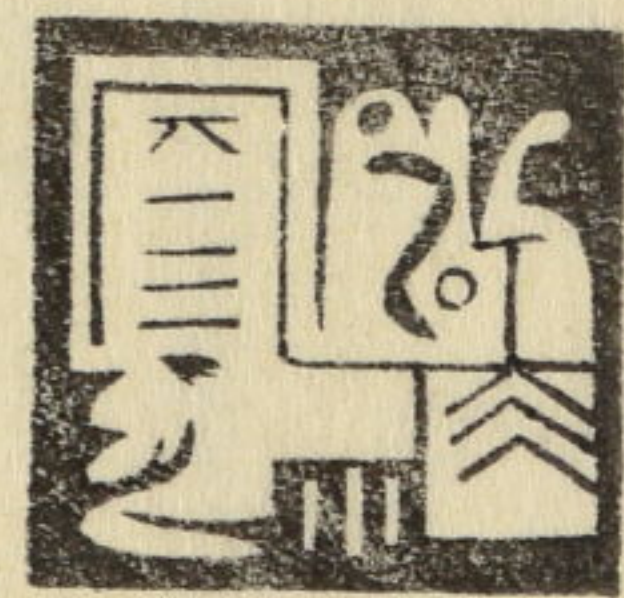
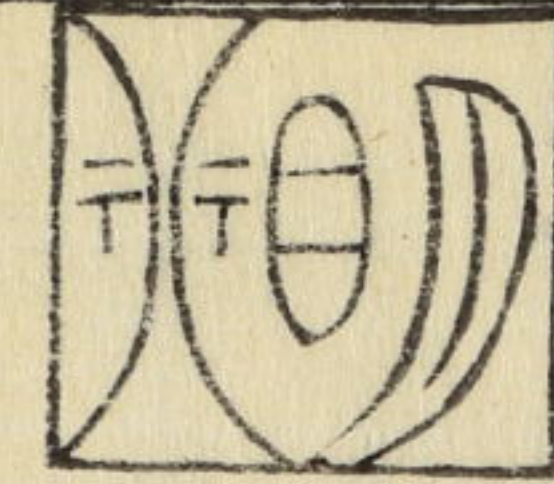
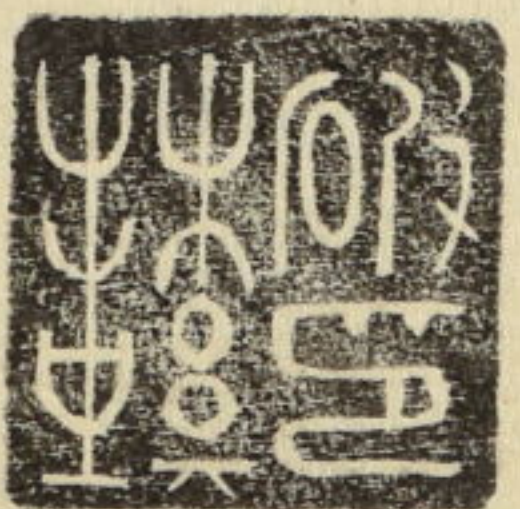
本朝...
四十七

の樓於長十餘丈ありは就くわ
 紙面に忍びて天井ふゆくさく
 骨面おぼりされ年と経くおぼく
 ら暴風ふやぶられ斥くと飛揚
 しく回りに失散せりを御片も又
 今常赤房ふありと之れを
 天井乃幡航へん徳紙ゆく撞
 ととらへ勝定枕を拍るに実をせ
 られ佛造乃情素とのごく大に云
 ると感慨やめる門の制とあり
 小あまるとなり又傳ふ云赤福も
 南の後乃怪別名赤脚子破系鞋
 宗的とあり後光教院文和年中

非典主
印文



明光筆



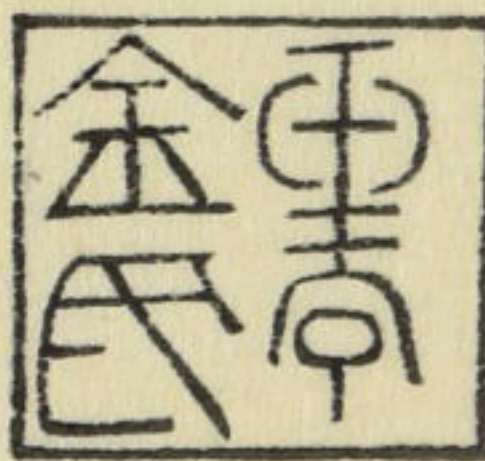
備一

備一
は花をやはらすの能

みほしく書瓜をぐり一とがかき

文種乃德ハ吾朝ノ善名ノ殊
ふあつるれあり

一之
印文



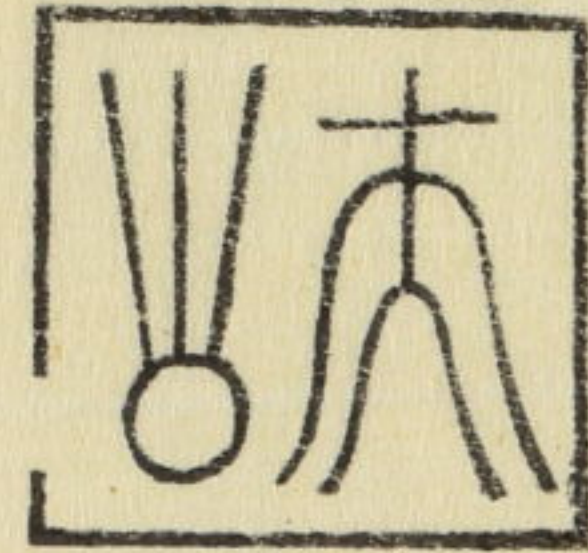
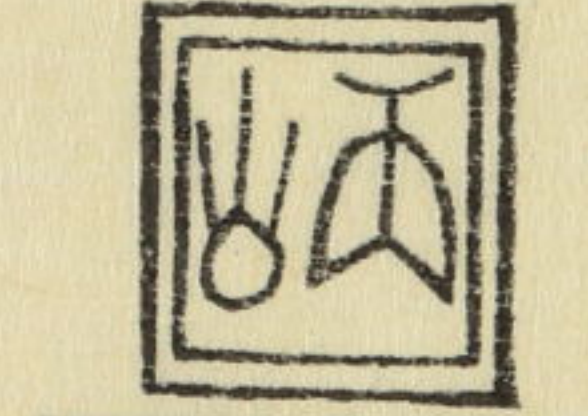
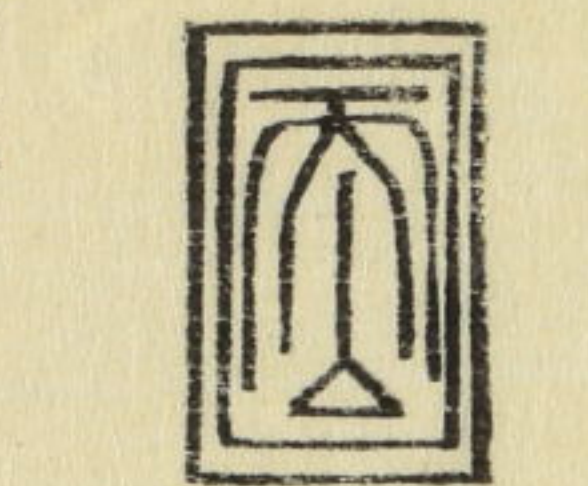
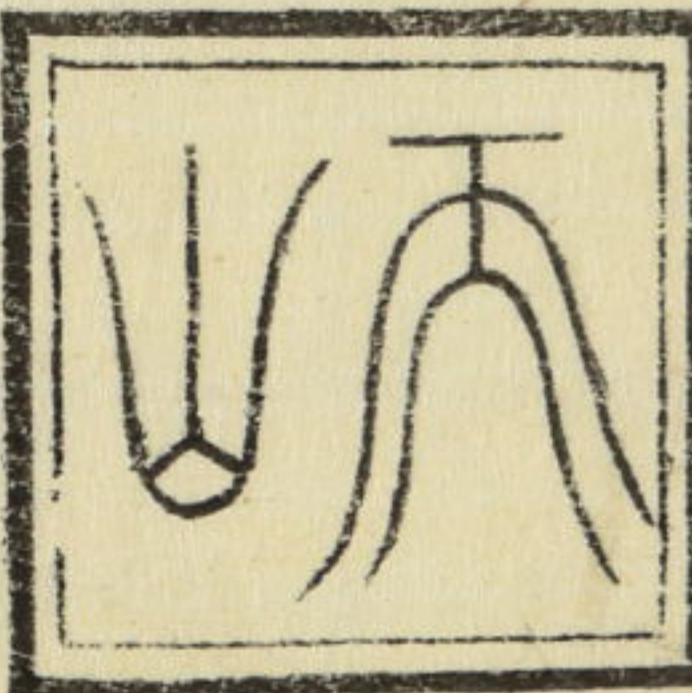
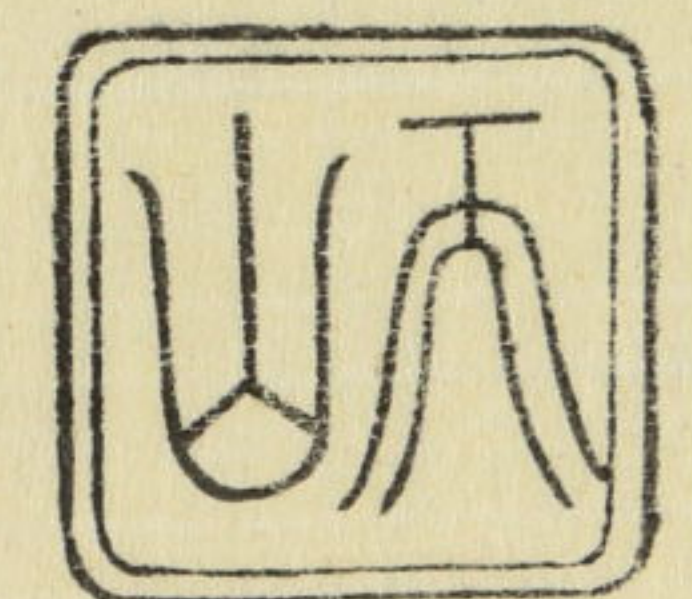
永存百七 世典主乃秀子之河内國
龍心乃侍衛達持ちの侍あり
我永年中乃人成ハ又長存
りり意氣あつてなつて仁徳と
ぐく孝法大なる法とあり今
親心乃之とあり中堂中吏泉并
四天王の徳乃び涅槃像持妙
勝定院為家持公夏 麻呂院
漢云乃長小足柳氏より代四世乃
將軍乃法名乃詮又經山と号
心金氏呼らててく親善の徳と

あぐく乃百後又乃徳と之小
一書とくく一より社よ冬
強れ徳乃あつて自ら一徳と
加ふを徳表早終乃りの世が
ぐく乃乃亦徳と又百後乃徳ハ
是乃之乃志力とあるあり
意照院為家改云乃世小謂東山
辰是乃乃政勢と云尚云小徳と
東山亦求索小困居乃ら其と
乃亦小を好乃徳乃小のひり
今世小なると物徳とふこれあり
を中亦定出の徳乃り一乃
衆乃相以加ふ乃れ乃れ乃れ
ぬけつ物と成ハ業真とあり
書古と成と我ハ和漢乃徳と
はくはく乃の心乃れあり

狂言終去おろ麗るび用安香
舟うおとこもトふあり別はに
軸山原澤へ天山と云後おを
亥徳中乃人なり

義政公

印文



おるふはるありふこれおる乃
既書一のふ乃思置方り置
原乃中と云此あり云乃中乃
と云ふなり

傍多ぬま 又赤柳子と号す赤

福ちふ居すの世と原とてく

仏像入抄紙多ぐ終小世なるがす

物れなきこ体なるなり赤福山

上樂翁乃思く世典まが居と云

不なり右侍小世典まが居と云

又と程ざりぬれは是なるなり

一休和尙也 障へ糸絶と号す大徳

寺小思云云世小断法す後小松

院乃三子ありと云り後乃小松の二

義なるなりと云りいばるなり

とあり徳の秀俊の指くりあり

らばる我地是と原とて云を

そとりのと云る道徳なり山あり

有人抽きかきなりと云り粗徳

乃云云也出果方り茶室法然と

宗文

印文

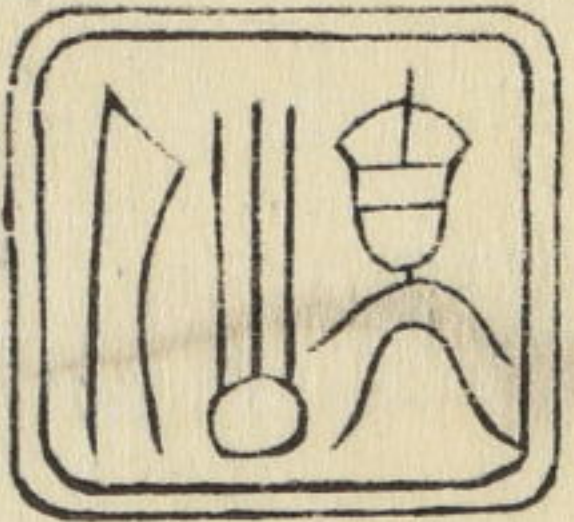


百五
又仙 又紹仙乃りけり一宗文
子あり難長も小使むとよく修む
あぐく祖風とまよく授養と廢せ
す響乃柳み挿る修む之を力
まらざるそ法とゆるるれなり



玄仙

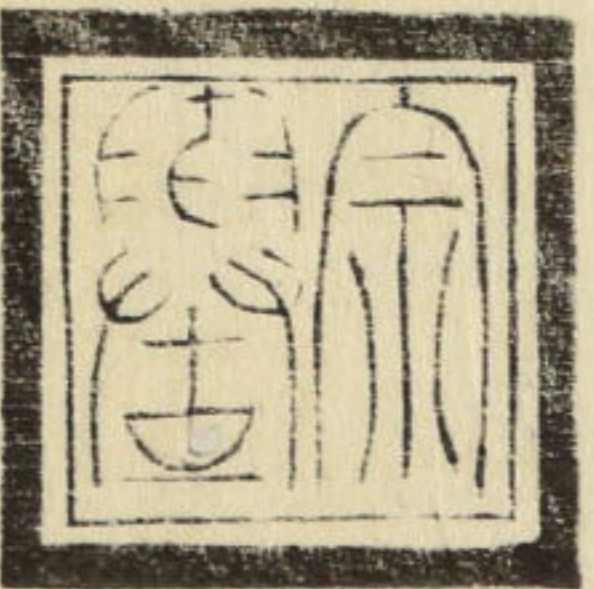
印文



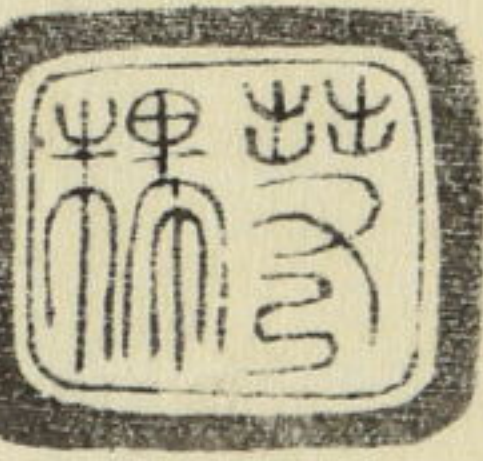
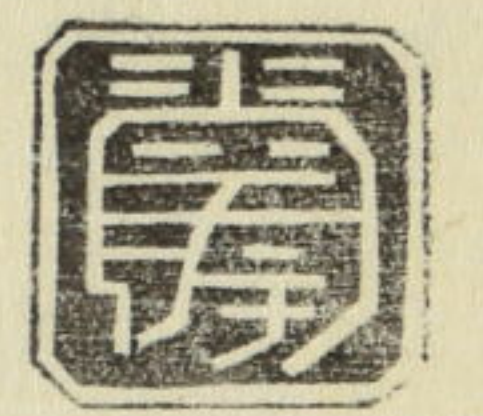
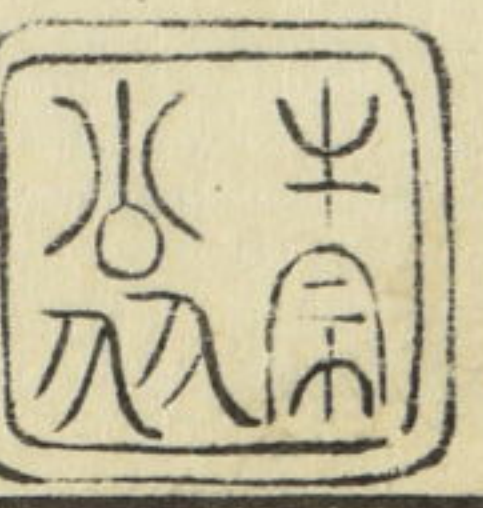
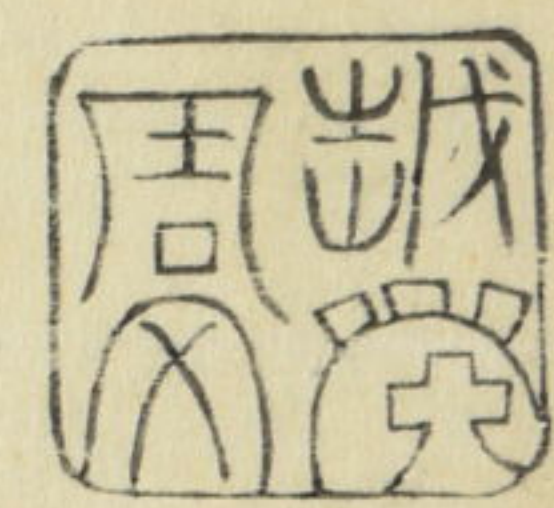
百廿六
百我宗卷 玄仙乃り子なり世
く中ぬ小使院家後乃宗ありを
比得祖二幅射乃法とるる人お
又二ありとより何孫退佛とあぐ
いしくまぬまうるる中あぐ思恭
とまあがるよ小慈父を賢大徳の
為小書とて書きて押まあり

宗卷

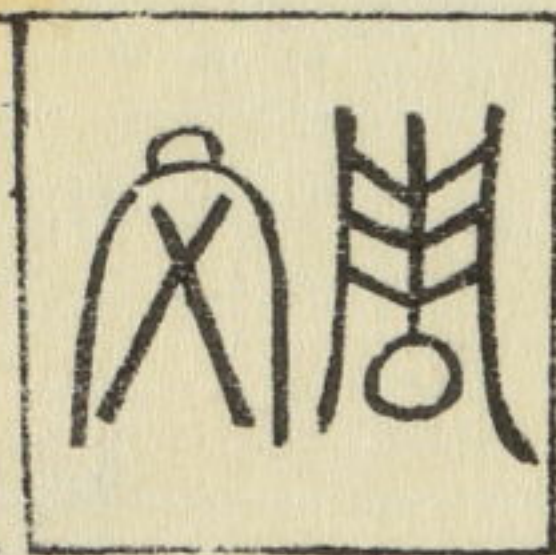
印文



水部

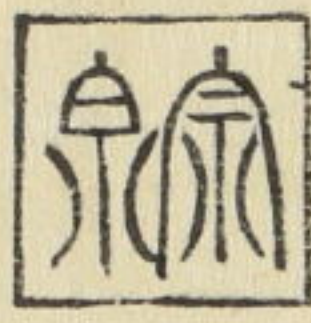


夏商



宗泉 如者子 周成法春

印文



上卷終

